

令和 2 年度 連携研究スキームによる研究（政策研連携研究課題）
評価報告書

研 究 テ ー マ 名	ポスト新型コロナウイルス時代における食料安全保障のあり方に関する研究のうち「食料の安定的な供給体制の構築に関する研究」
政策研連携研究課題名	食料供給、食料消費の構造的な変化を踏まえた食料安全保障のあり方に関する研究
研 究 実 施 期 間	令和 2 年度 ～ 令和 4 年度
研 究 の 概 要	本年度は研究に必要なデータ類購入の他、ウェブアンケート調査を実施するなど、環境整備を中心に進めた。同時に、一部については集計・分析を進めており、次年度には個別報告や論文投稿も予定している。さらに、委託先との議論から追加調査や分析とともに、残された課題である食料供給体制や食料安保の分析についても着手する予定である。
評 価 結 果 ○評価委員会名及び開催日 ポスト新型コロナウイルス時代における食料安全保障のあり方に関する研究のうち「食料の安定的な供給体制の構築に関する研究」 3月2日～16日 ○評価委員長 木立 真直（中央大学商学部教授） 廣政 幸生（明治大学農学部食料環境政策学科 教授） 竹下 広宣（名古屋大学大学院生命農学研究科・農学部 准教授） ○評価基準 ・社会的ニーズへの対応 S:非常に大きな意義がある A:大きな意義がある B:意義がある	【評価項目毎の評価】（ ）内は3名の委員の投票数を示す。 ○社会的ニーズへの対応 A:大きな意義がある（2） B:意義がある（1） ○政策の企画・立案への対応 A:大きな貢献が見込める（1） B:貢献が見込める（2） ○学術面から見た研究成果の評価 A:学術的に高く評価できる（2） B:学術的に評価できる（1） ○研究計画の妥当性 A:妥当である（2） B:概ね妥当である（1） ○研究資源・実施体制の妥当性 A:妥当である（1） B:概ね妥当である（1） C:やや妥当でない（1） ○研究目標の達成度 A:達成度は高い（2） B:概ね達成している（1） 【総合評価】（ ）内は3名の委員の投票数を示す。 1:順調に進行しており、問題ない（1）

C:意義が小さい D:意義は見出しがたい ・政策の企画・立案への貢献 S:非常に大きな貢献が見込める A:大きな貢献が見込める B:貢献が見込める C:貢献は小さい D:貢献は見込みがたい ・学術面からみた研究成果の評価 S:学術的に非常に高く評価できる A:学術的に高く評価できる B:学術的に評価できる C:学術的な評価はやや低い D:学術的な評価は低い ・研究計画の妥当性 S:非常に良い A:妥当である B:概ね妥当である C:やや妥当でない D:妥当ではない ・研究資源・実施体制の妥当性 S:非常に良い A:妥当である B:概ね妥当である C:やや妥当でない D:妥当ではない ・研究目標の達成度（達成可能性） S:達成度は非常に高い A:達成度は高い B:概ね達成している C:達成度はやや低い D:達成度は低い ・総合評価 1. 順調に進行してお	2:ほぼ順調であるが、改善の余地がある（2） 【評価委員からの主な意見】 ○新型コロナウイルス感染症終息後には、世界的に食料需給の状況が変化すると考えられ、それに対する準備、対処方策は重要である。 ○個人家計データ分析や消費者パネル調査などにより食料消費を詳細に把握する研究成果は実勢的政策策定に貢献することが期待される。 ○アソシエーション分析により購買行動の変容を把握しており、フードシステムに及ぶ影響の分析に資すると考えられる。 ○研究者の不足の現状から脱するため、研究所内部での横断的な研究体制を立ち上げ、外部との連携を図ることが必須である。 ○コロナ禍においても、可能な調査手段を活用し、予備的分析成果を上げている点で優れている。 ○ポストコロナ時代の食料供給と消費構造を踏まえた「食料安全保障」について検討を進めることは極めて重要である。 ○コロナ禍の研究活動が制限された中で、それなりの成果があがっている。研究テーマは高い重要性を持っているので、今後、人的資源の拡充を図り、研究の取り組みに期待したい。 ○研究環境に制限がある中、活用可能な調査手段を用いて、データ収集と予備的な分析結果を得ている点に対して高い評価を与えるべきと考える。さらに、政策立案に資するという観点、学術的評価を高めるという観点から、できれば、次年度以降の研究計画の見直し・実施体制の強化を検討していただきたい。
---	--

り、問題はない 2．ほぼ順調であるが、 改善の余地がある 3．計画等を変更する余地がある 4．中止すべきである	
今 後 の 対 応 方 針	研究人材の確保について、所内の人材活用・発掘とともに中長期的には積極的な採用など研究体制構築を行う。同時に、食料供給体制や食料安保の分析方法についても早急に検討を開始する。